
妹から、異世界好きの兄への直筆状

秋葉春木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妹から、異世界好きの兄への直筆状

【Nコード】

N3924BA

【作者名】

秋葉春木

【あらすじ】

俺⇨ぼく・妹⇨妹。リアルと現実と三次元は、すべて異なる定義で存在している現実世界だと思う。俺の妹は、そんなこと露とも考えずに幸福を満喫して過ごしていることだろう。

正直言って、俺がラノベを買い続けた理由は『スレイヤーズ』の主人公リナ・インバースの声優が、林原めぐみだったことが始まりだった。

そもそもラノベの歴史は浅くて、俺がまだ小学生の頃には電撃文庫もスニーカー文庫もなく（たぶん）、ただバベルの塔がごとく一直線に、富士見ファンタジア文庫が天を目指していた。

あのときの俺はるくに考えもせず、語感が良いからという理由で『魔術士オーフェン』を買っていた。中学生になる直前まではまともに「まじゅつし」とも言えない舌足らずだったのだが、それは部屋の隅の碁石とともに放置していきなれ。

中学になっても『オーフェン』や『風の大陸』を購読していた俺は、もちろん『スレイヤーズ』もお気に入りのひとつだった。なんといつてもリナ・インバースの破天荒さは、涼宮ハルヒや高坂桐乃など、ラノベにおける我が儘ヒロインたちの基盤になっているような気さえする。

小遣いが無くても必死に『スレイヤーズ』を買っていたのは、あのとき林原めぐみの声に恋をしていたからだと思う。そういえば、長門有希は綾波キアラとしても王座についているが、綾波は林原めぐみだ。……なんだ『ハルヒシリーズ』は案外『スレイヤーズ』に関わりがあるようだな。

あ、誤解しないでもらいたいが、オワコンなどと言われようが、俺は今でも涼宮ハルヒシリーズを気に入っている。俺がキヨンのような話し口調なのもそれが一因となっていると指摘されれば否定はできない。作者と出身が同じなのも影響なのだろうか。「やれやれ、けっさいなことだ」

……まあ、俺の勝手な見識や想い出はどうでもいい。些細な感想はテムズ川の下流にでも流して貰いたい。あそこはなかなか流れて

いくぞ。

いま大事なのは、俺の妹の話だ。

日本人にどれほどの妹好きがいて、そのうちどれほどほんとうに妹がいないのか、などと聞かれた場合、おそらくほとんどの妹萌えには実妹がいないであろうと昨今から予測されている具合であるのは、誰の目にも明らかであろう。

実際、俺にも五歳年下の妹がいるんだが、そんな俺は断じて自分の妹には俗世的興味はない。そもそも思春期の妹なんていうのは護る対照であっても愛でる対照ではない。『俺の妹が』はかなりの現実味があったと思うね。少なくとも、一巻の途中までは。

誇張と省略が日本画の特徴であるように、妹という属性も誇張と省略にまみれているんだ。同じ家で本当の妹と暮らしてみる。それこそギャルゲのアホ展開なんか期待してるやつには、俺のジャックザリッパーがどうこうすることはないが、まあ自分で失望するだろう。

汚い話が、妹だつて大便もするし鼻糞も溜まるし風呂には毛が浮くってことだ。しかも、それでいて男を汚物扱いしやがるから、いかに理不尽な生物かがわかる。現実には怖い。

しかしだ。なにも俺が妹属性を否定するためにこんな話を始めたと思われても、それは誤解としか言いようがない。

ほんと、誤解だ。口語調で書くとなれば「そらありえへんわ」だ。このまま関西弁が日本を席卷してくれないかと思っただけ、それを妹に言ったら「それは阪神ファン増えすぎて気持ち悪いから嫌やわー」と頬を膨らませていた。

ああ、それなら正直に言おう。

俺は妹が好きだ。

これもまた誤解のないように述べておくが、好きと言ってもたぶんきみたちが想像しているようなもんじゃない。

もちろん母や父と同じ具合に愛している、ということだ。俺はまだまだ反抗期がないから生まれてこのかた家族は大事にしているし、妹も同じだろう。最近の家族は喧嘩が少ないという噂は伊達じゃないようだ。真田でもないが。

ともかく、俺は妹を愛でる対照だとは思っていないが、愛する対照だとは思っている。わかりやすくいおうか。

俺は妹にアガペーだ。

逆にわかりにくいだと？ そんなもんは知識さえあればなんとかなる。そのためにアダムとイヴはリンゴを無断で食べたんだろうかな。それに冒頭から解かりやすい例えしか使ってないのは、俺なりの優しさなんだ。

……上から視線がウザいだと？ ふふん。俺はどうせ中二病から抜け切れてないフリーターだ。それに俺の優しさは、この文章を読むのであるう不特定多数の人間すべてに染み込むようにはできていない。

むしろ俺の文章に不快を感じるやつがいれば、それはそいつ自身が自分にとって不快な人間だからだ。純粋なやつがこの文章を読んだ場合は「へー、そうだったんだ」という感想で終わりだ。

俺の妹が純粋でよかったと、俺はいつも思っているぞ。ツンデレのツの字もない妹だ。大学一年だというのに「あと身長三十センチは伸びるんやー」と本気で言い張るような妹だ。「兄ちゃん、北口駅まで買物いこー」と微笑んでくるような妹だ。どうだ、純粋だろう。

まあ何度もいうが、俺の妹はそんなに可愛いのだ。妹属性や二次元妹なんぞおよびつかないほど、俺の妹は人間臭くてこれ以上なく現実だ。

そしてまた確認しておくが、俺は二次元の妹属性もそれほど嫌いではない。妹属性は愛でる対照としてはアリだと思っている。だが、そのニュアンスを三次元に持ち込ませるわけにはいかない。そういう話だ。

俺の妹自慢はここまでにしておいて、ならば妹がいない人たちに、俺たち妹がいながら妹属性も好きだという特殊タイプ（だと思われる）の気持ちをも、いかにして理解してもらえるか考えた。

そしてよくよく考えた結果、俺は少し実験してみることにした。次長課長の河本ではないが、耳の穴をかつぽじってよく聞けよ、と言いたい。

俺は、ここに妹に文章を書き込んでもらうことを決意した。（実際はここにはなくここに書くための原稿のような形で、だが）

実の兄が「あのさ、妹属性について思うことを書いてくれへんか？」と正直に頼んだわけである。

そしてもちろん、俺がこれまで書いた上数十行の文章もまとめて見せた後、だ。

俺がラノベやアニメ好きだということをも漫然と知っていた妹も、さすがにこれを見て驚いていたようだが。

『くら寿司』という寿司屋に連れていくことを条件に頼むと、妹は部屋に戻って三時間ほど悩んだあげく、ルーズリーフ一枚にこんな文章を書いてくれた。

これは『異世界ファンタジー好きの兄に対する妹からの直訴状』だ。

以下、抜粋。（事情により一部省略）

兄ちゃんが友達に内緒で集めてるラノベは、うちもべつにおもしろいから好きやで。

妹萌えとか、眼鏡萌えとか、そんなんはよくわからんけど、うちが『君に届け』とか『リアル』好きなんとな変わらんのちゃう？

好きやから集めたり夢中になったりするんやろ？ まあ、さすがにアニメと現実ごっちゃにするんは変態さんくらいやけど、

兄ちゃんはそのなことせーへんやろ？ それにたぶん、オタクと

かAKBファンとかも、ちゃんと空気読んでる人がほとんどやろっし。

やからなんも気にすることないで。まあ兄ちゃんが隠したかったらべつにええけど、うちは兄ちゃんの友達いっぱい知ってるし遊んでもらったこともあるからわかるけど、

よっしゃんとかさいとーさんとか、ぬまさんとかが今更そんなんで兄ちゃんの印象変えたりせーへのちゃうん？　うちはそう思うけどな。

そら、うちもエロゲーとか兄ちゃんの部屋で話してる時気になるけど、あれはあれやろ？　さっき見たけど、兄ちゃんはちゃんと現実と区別つけてるし、

うちと妹属性ってゆうんが別やと思ってるんねやろうから、そこはいいと思うで？　兄ちゃんだって大人やし男やし。

なんか改まってこんなん書くん恥ずかしいなあ。でもせっかくやから書くで。これ、ネットに小説みたいな感じで載せるんやろ？

ほんならうちも作家デビューみたいなもんやんな？　じゃあ書かせてもらおうわーとおもてん。どきどきやなー。

あと、身長のこと書いとったな？　三十センチは大袈裟に言いますぎやて。十センチは伸びると思うてゆったんや。さすがにうちも夢見てへんし。

あと、兄ちゃんってやつぱうちのことが好きやったんやな。でもネットでそんなん言いふらすんはやめてほしいかも。さすがに友達だけにしといてや。

じゃあ、また東京から戻ってきたらうちが書いたやつの中のページのページ？見せてや。

兄ちゃんの妹よりvv

……どうだろう。これが俺の妹からの直筆ルーズリーブの一部抜粋だ。

さすがに俺も恥ずかしく感じることも火の如しだが、武田信玄でも成しえなかった金山攻略でもしてみたくなるほどやる気がでた。

そして我が妹ながらツツコミどころは満載だ。

俺はべつに相談したかったわけでもないし、オタクもAKBファンも細分化すれば果てしなく別の生き物であるのだが、わかっておらず。

この文面から察するに俺の自宅に置いてあるエロゲを妹がこっそりプレイしたことがあるようだ。この前帰ったとき、ディスクのなおしかたがいつもと違っていたりしたから。やって後悔しただろうなハハハ。

しかも作家デビューとはなんとモ字面のいい一文だろうか。プロ作家としてデビューなんぞできれば、俺も実家に帰るだろうな。まあ俺には無理だろう。なんせ小説を書いたのは三日前が始めてだ。ここに投稿したが、初心者まる出しだろうな。

身長のくだりに関してはもはや言及はすまい。これを見た十人が十人、ツツコミをいれてくれたはずだ。でなければ嘘だ。レナちゃん「嘘だっ！」は最高だと思いがな。

兎にも角にもだ。やはり俺の妹だな。思考が似通っているだろうことが判明した。X染色体は必要最低限の働きしかなかったようだ。科学といえば、T2ファージの最強説はどうなっただろうか。やはりバクテリアには敵わないか。どうでもいいが。

しかし疑問に思ったのは、最後のvvだ。流行っているのか？

ただのふざけか知らないが、wではなくvvだと。俺にはwにしなかつた意図がさっぱりだ。

……こんなところだろう。俺の他に、誰か実の妹から妹属性などについての考察を述べたやつがいるかは俺の知る次第ではない。

それに俺はそろそろ満足だ。

いまごろアホな妹は、朝日を待ちつつ快眠をむさぼっているのだろうか。あの坂途中の一軒家で。

そしてここまで読んでくれた貴重な読者諸君。俺はともかく妹の

文面に目を通していただいで感謝するよ。

小説でも独白でもないただの散文だが、俺と妹のストーリーはこうやって日々つづられていることは想像してくれただろうか。

異世界好きの俺の、その小柄な妹は、相も変わらず元気ですごしていることだろうよ。能天気にも、人間型霊長類としてエネルギーシユに。俺はその事実があればそれでいい。

ああ、言うのを忘れていた。

俺が一番好きなソツチ側の妹属性は『橘美也』だ。メジャーだがメインではない妹属性キャラだが、あしからず。

(後書き)

小説よりこういう散文が得意ですが、これを最後に目的の無い文章はやめて小説を書いていきたいと思えます。さながら小説は、ロジカルに理不尽な話を組み立てる建築作業だと感じます。結論は、m i x i の日記が一番楽しいってことかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3924ba/>

妹から、異世界好きの兄への直筆状

2012年1月10日06時46分発行